

県立川西緑台高等学校 平成31年度 学校評価結果

学校教育目標	平成31年度重点目標
(1)高い志、豊かな創造力、チャレンジ精神を培い、国際社会で活躍できるリーダーを育成する。 (2)育成する生徒像 ①知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自らの夢や志の実現に努力する生徒 ②探究心、向上心のある生徒 ③豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に人生や社会を切り拓く生徒 ④幅広い教養や、コミュニケーション能力を身につけ、国際社会の平和や発展に貢献する力を持つ生徒 ⑤我が国と郷土を愛し、感謝の心を持ち、互いを思いやり、尊重し、命や人権を大切にす、よりよい社会づくりに向けて主体的に行動する生徒	(1)65分授業の工夫と充実 (2)自主性・協調性・リーダー性の涵養 (3)将来の「自己実現」を目指した計画的指導 (4)「体験教育」による社会性の向上 (5)情報発信による教育活動の改善 (6)学校の組織力の向上
学校関係者評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域への積極的なアピール活動は今後もしていくべきだと思います。 ・1学年より、「総合的な探究の時間」で、これまで以上にフィールドワークや大学訪問を通してその成果を英語にしてパワーポイントでプレゼンするなど、勉強とは何か、より深い学習に向け、1年ごとに変化しつつある緑台高校がもっとアピールされてしかるべき。 ・学校だけでなく、地域の清掃に参加することで美化意識が少しでも身につけば非常に嬉しく思います。 ・「教委相談」に関して、相談・啓発・啓蒙も必要だと思いますが、ストレスに強い人間づくりを考えた教育を研究することが必要ではないかと思ひます。 ・「知徳体」のバランスのとれた人づくりはできています。 ・人間力の育成により一層の注力をお願いしたいと思っています。会社員にしろ自営業にしろ働くうえにおいては人間力が大きくウエートを占めると思ひます。 ・総合理数コースを特色とし、様々な講演会を通して生徒の興味関心を高めている。 ・国語や英語の小テストを通し、丁寧な基礎基本を身につけさせ、学習意欲を確立させる指導ができています。 ・模試や細やかな進路指導、学校全体で落ち着いた学習環境、先輩方のやる気のある後ろ姿が後輩に良い影響を与え継承されます。良い環境があり、緑高の魅力です。 ・生徒会の質問箱、自主的な首里城再建の募金活動、部活動での生徒の頑張る姿、のびのびと部活動に打ち込める環境、熱意を持ってご指導くださる先生方に感謝します。 ・阪神地域を代表する高校を目指し創り上げていただきたい。そのために地域に求めることを発信していただき、地域はそれに応えられるよう手を打っていきたく思ひます。 ・学校が元気であれば、地域も元気で元気ある町になると思う。できることから実行に移されているところは素晴らしいと思う。さらに外に向けてアピールされることを期待します。 	
学校自己評価結果(4:よくできた 3:おおむねできた 2:あまりできなかった 1:できなかった)	

A ≥ 3.3 3.2 ≥ B ≥ 2.5 2.4 ≥ C ≥ 1.6 1.6 > D

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価	評価	
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校のHPを通じて、学校の情報を可能な限り公表し、内容の更新も月ベースで実施する。	2.8	B	
			中学校訪問、オープンハイスクール、オープンスクール、学校説明会等を通じ、学校のPR活動を充実させる。	3.2	B	
		地域や関係機関と連携した学校づくり	地域や近隣の学校・関係諸機関との連携を密にし、不審者等の情報を共有する。	3.2	B	
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	職員・生徒・保護者に生徒指導方針を明確にし、共通理解を図る。	3.0	B	
			随時個人面談を実施するとともに、家庭との連携を図り、必要に応じ家庭訪問を実施する。	3.2	B	
			キャンパスカウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解に基づく指導について実践力を向上させる。	3.1	B	
			教育相談を充実させ、生徒の内面理解を深める。	3.2	B	
	進路指導	生徒の自主・自立の精神を育む指導の工夫	生徒会活動、部活動を活性化し、生徒の自立意識を高め、一人一人の生徒が自己の特性を生かし、創造性、協調性を発揮して、充実した活動ができるように努める。	3.1	B	
			進路指導の充実	三年間を見据えた進路計画を作成し、組織的・継続的な進路指導を行う。	2.9	B
				進路状況、模試等の結果を分析し、進路指導に活かす。	3.1	B
模試等の結果を分析し、学習指導に活かす。				3.1	B	
主体的な進路選択能力の育成		「進路情報」の発行により、生徒・保護者に的確な情報を提供する。	2.8	B		
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	外部講師を活用した講演会、大学出前講座等により、生徒の進路意識を向上させる。	3.3	A	
		LHRや総合的な学習の時間で職業観、勤労観を育成する。	3.1	B		
教職員の資質向上	計画的な進路選択能力の育成	LHRや総合的な学習の時間で、自らに適した職業、学部・学科等を見つけていることができる力を身につけさせる。	3.1	B		
		研究授業、公開授業を積極的に行い、教科指導の工夫と指導力の向上を図る。	3.0	B		
教職員の資質向上	計画的な進路選択能力の育成	進路、生徒指導、保健、人権等、学校の諸課題について職員研修を実施する。	3.1	B		

教育課程	教育課程	教育課程の編成	教育目標の実現を目指して、生徒・学校の実態を考慮した適切な教育課程を編成する。	2.9	B
		教育課程の実施運営	1回当たりの授業時間(65分授業等)、定期考査の実施時期などを検討し、本校に適した制度を見出す。	3.1	B
	基礎基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	定期考査等で生徒の学力を的確に把握し、その結果を授業、補習、補充等での指導に反映する。	3.2	B
			教科毎に評価基準を設定し、それに基づいた評価を行う。	3.4	A
	個に応じた学習指導	指導形態の工夫	習熟度別指導、少人数指導、同室複数指導等で、個に応じた指導を行い、学力向上を図る。	3.2	B
			年間計画に基づいて、計画的、系統的に学習指導を行う。	3.2	B
			自ら主体的に学ぶ習慣を身に付けさせる。	2.9	B
	総合的な学習(探究)の時間	実施計画	教務部、進路指導部を中心として、3年間を見据えた指導計画を作成する。	3.0	B
		創意工夫を生かした実践の展開	図書館や情報教室等の施設を利用した探究活動や、発表等による表現活動を行う。	2.8	B
	特別活動	学校行事の精選と内容の充実	行事を精選し、適切な時期に実施する。	2.9	B
行事内容の充実を図る。			2.9	B	
学校行事実施後はアンケート等により、その結果を次回に反映させる。			3.1	B	
課題教育	課外活動	ボランティア活動	生徒会を中心にして、ボランティア活動、募金活動等に積極的に参加する。	3.0	B
	人権教育	人権意識の育成	人権HRや講演会等を計画的に実施し、人権についての意識を向上させる。	3.0	B
		実践力の向上	学校全体の教育活動を通じて、人権を相互に尊重しあう意識、姿勢、実践力を向上させる。	2.9	B
	防災・安全教育	教職員の防災教育に関わる指導力・実践力の向上	防災(避難)訓練の実施を通し、防災について認識を深め、防災マニュアルの周知を図る。	2.9	B
			救急救命講習(AED等)を実施し、救急時に対応できる実践力を身につける	3.3	A
		実践的な安全教育への取り組み	生徒会、運動部の生徒を中心とした救急救命講習を実施する。	3.5	A
			家庭、関係機関との連携を深め、交通安全指導を強化し、交通ルールを遵守させ事故防止を図る。	3.0	B
	国際理解教育	コミュニケーション能力の向上	ALTを外国語の授業に積極的に活用し、コミュニケーション能力の育成を図る。	3.3	A
			ALTを授業以外にも積極的に活用し、異文化理解の深化を図る。	3.0	B
		交流事業の推進	国際交流について、今後のあり方を検討し、方向性を決める。	2.7	B
	情報教育	情報活用能力の育成	教科「情報」などを通して、機器の活用法・情報モラルを含め、情報活用能力の育成を図る。	3.0	B
	体験活動	就業体験活動の推進	保育実習、企業等での体験講話などを通して、職業を体験し、進路についての理解を深める。	2.7	B
		地域貢献活動の推進	地域行事への参加、学校周辺の環境美化、小学校との連携授業を行い、地域との連携を深める。	3.1	B
コース・特色	総合理数コースへの指導	総合理数コース生徒に対して、計画的・系統的な指導を行う。	3.3	A	
学力向上	学力向上プロジェクトの推進	学力向上のための課題、方向性を明確にする。	3.1	B	